



リフレッシュして“春”

高感度アップのポイントは清潔感。春は、草木も新しく生まれ変わる季節です。会社や学校も新年度をえるとき、冬の汚れをクリーニングして気分もリフレッシュしましょう。



繊維製品を着ると温かいのは、繊維が空気の間をくくり、この閉じ込められた空気の間が、断熱効果を揮うからです。汚れ成分は、繊維の間に入り込んで、接着剤のように繊維どうしをくっつけてしまうので、空気の間がつぶれて、保温効果が低くなってしまいます。クリーニングすると空気の間が復活して自然な温かさを取り戻すことができ、軽く柔らかな風合になります。これは、汚れ成分とこれが吸収する湿気が無くなるためです。また、繊維にこびりついた汚

絵画の中の洗濯風景

噴水で洗濯する女



カール・シュピッツヴェーク (1860年頃)

カール・シュピッツヴェーク (Carl Spitzweg, 1808年2月5日 - 1885年9月23日) は、薬剤師でもあったドイツの画家です。

この作品は、1860年頃のものとしてされています。

町の広場の噴水に女たちが洗濯物を持ち寄って洗濯しているのですが、左側に立っている役人らしい男性が、右の立ち上がった女性に対して指をさしながら何か忠告しているように見えます。この時代のヨーロッパでは、川で洗濯する風景絵画が多くみられますが、公共の場所である広場の噴水で洗濯してはいけないと注意しているのでしょうか。川よりも清潔な噴水の水で洗濯したくなる気持ちはよくわかります。当時の都市部の川は生活排水などの汚物が流されていたのですから。

HomeDry News

ホームドライニュース No.114



- 絵画の中の洗濯風景: 噴水で洗濯する女
- なるほど納得! 衣生活の知恵: リフレッシュして“春”
- 繊維と服飾の物語: 高級ファッション素材モヘヤとアンゴラは何の毛?



繊維と服飾の物語



高級ファッション素材

モヘアとアンゴラは何の毛？

ふんわり柔らかく温かい、冬の高級素材モヘア。モヘアは、アンゴラ山羊の柔毛です。

アンゴラといえば、家庭用品品質表示法ではアンゴラウサギの毛をアンゴラと呼ぶことになっています。

アンゴラ山羊の毛がモヘアでアンゴラウサギの毛がアンゴラというわけですがちょっとややこしいですね。

*「モヘア」と表記されることがありますが、繊維製品表示規程という規則では「モヘア」と表示するように定められています。



モヘア繊維が採集されるアンゴラ山羊

アンゴラ山羊もアンゴラウサギもともにアンゴラ地方を原産地とする動物とされていますが、現在の地名ではアンゴラという中部アフリカのアンゴラ共和国ということになりますが、アンゴラ山羊とウサギの名前の由来である地名は、トルコのアナトリア高原地域の古代の呼称によります。現在のトルコの首都アンカラは、紀元前のローマ帝国に占領されていた時代にアンゴラ (Angora) と呼ばれていたのです。

では、なぜアンゴラ山羊の毛はモヘアと呼ばれアンゴラウサギの毛はアンゴラと呼ばれるようになったのでしょうか。

モヘア(mohair)の語源は、アラビア語のmukhayyar (マクヒヤ)とされ「選択」「選ばれたもの」を意味します。このことから「選び抜かれた最上の獣毛」を意味することになったのでしょう。また、アンゴラウサギの毛をアンゴラそのままの呼称によるものですが、モヘアとは全く違った性質の毛です。



アンゴラ繊維が採集されるアンゴラウサギ

●モヘアの特徴と取り扱いの注意点

モヘアの主な生産地は、南アフリカ、トルコ、アルゼンチンなどです。

モヘアは美しい光沢があるのが特徴です。羊毛に比べて表面の構造が平坦で手触りが滑らかですからかゆみも出にくく、敏感肌の人にも適しています。丈夫で耐久性があり、弾力性もあるためシワになりにくいのもメリットです。

カラフルに染色しやすいのでファッション製品に適しています。モヘアは毛足が長いために静電気が起きやすいというデメリットもあります。静電気が起きると毛玉が発生したり毛抜けが起きやすくなります。また、ケンプという短くて硬い毛が混じっていることも特徴の一つです。このケンプは、次第に抜け落ちて、生地自体を薄くさせてしまうことになり、モヘア混紡のスラックスを数年着用していたら股部分が毛羽立ち、すり切れたというトラブルなどが起こりがちです。ズボンの折り目(特に折り目加工された製品)や裾の折り返しは、擦り切れやすいので注意が必要です。

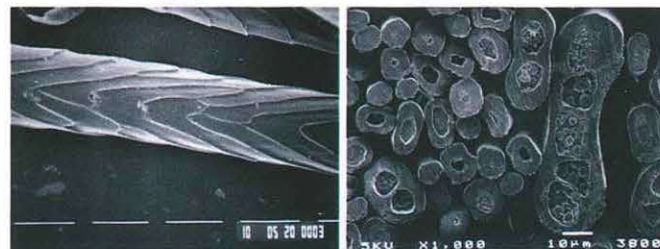


モヘア繊維の表面はあらゆる獣毛で最もなめらか

●アンゴラの特徴と取り扱いの注意点

アンゴラの生産国は、中国、フランス、チェコスロバキア、南米などで、中国は世界の90%の産出量を誇っており、日本は主に中国から輸入しています。またフランス産のフレンチアンゴラは、産出量が少ないため高価なものとなっています。非常に軽くて柔らか。ただしデリケートすぎるため、ウールや化学繊維などと混紡されるのが一般的です。

アンゴラ繊維は、平均繊維径が約14 μ m。繊維長が30~32mmと非常にしなやかです。中空構造であり、内部に空気を抱え込み断熱性が高い空気であたたかみがあります。



細い繊維に大きなスケール(ウロコ)で断面は中空

しかし、アンゴラウサギの繊維には、他の獣毛と違い、縮れ(クrimp)がない直毛であるため毛が非常に抜けやすいという大きな難点があります。ラッシュ時の着用を避けるなど、他の衣類と接触しないように心がけるようにしましょう。また、繊維の構造から、他の獣毛に比べて表面のスケール(ウロコ)は大きく、湿気を吸収するとこのスケールが大きく開いて繊維どうしが絡みながら縮んでしまうこととなります。家庭洗濯ではウール以上にフェルト化収縮という現象を起こしやすいのでプロに任せるのが安心です。